

# 第10章

## 動名詞

### 第1節 動名詞の用法

#### 1. 動名詞とは

「**動名詞**」とは、動詞が変化した形の1つで、文字通り「**動詞+名詞**」として機能するもの、つまり本来の「動詞」の機能に「名詞」の機能が加わったものと言えます。動名詞は、「動詞の原形の語尾に『-ing』がついた形」です。この形は「現在分詞」と同じです。

(★「動詞の『6つの形』」→P.74 参照。)

動名詞は日本語では「**～すること**」と訳されます。あるいは「**二字熟語**」のように訳されることもあります(例: cooking 「料理すること、料理」)。

#### 2. 動名詞の基本的な働き

動名詞は、普通の名詞と同じように、文中において主に「1. 主語」「2. 動詞の目的語」「3. 補語」「4. 前置詞の目的語」のいずれかとして機能します。

(★「名詞の基本的な働き」→P.31 参照。)

##### (1) 動名詞の働き 1: 主語となる (述語動詞の「動作を行うもの」「述部の主体」)

例: **Smoking** is not good for your health.

「タバコを吸うことはあなたの健康にとって良くない。」

##### (2) 動名詞の働き 2: 動詞の目的語となる (述語動詞の「動作が行われるもの」「述部の対象」)

例: Do you like **playing tennis**?

「あなたはテニスをすることを好んでいますか?」

##### (3) 動名詞の働き 3: 補語となる (主語や目的語と「イコールの関係」となっている語)

例: My hobby is **collecting stamps**.

「私の趣味は切手を集めることです。」

##### (4) 動名詞の働き 4: 前置詞の目的語となる (前置詞の後ろに置かれ、形容詞句や副詞句の一部となる)

例: I am interested **in building a house**.

「私は家を建てることに興味があります。」

### 3. 「動詞」に近い動名詞と「名詞」に近い動名詞

動名詞は「動詞＋名詞」というように「動詞」と「名詞」の両方の働きを持つものですが、文脈や単語によって「**動詞に近い動名詞**」と「**名詞に近い動名詞**」に分けることができます。

#### (1) 「動詞」に近い動名詞

たいていの動詞は、動名詞になっても「動詞」としての本来の働きを失いません。つまり、動名詞の「動詞＋名詞」の働きのうち、「動詞」として後ろに「動詞の目的語」や「補語」や「修飾部分」を伴い、それらも含んだ全体で「1つの名詞」として扱われます。

このような動名詞は、「動詞＋名詞」の働きのうち、どちらかと言えば「**動詞に近い動名詞**」と言えます。日本語に訳す際は「～すること」とするのが自然です。

例1：**Beginning the game now** would not be a good idea.

「試合を今始めることは良い考えではないだろう。」

(動名詞「beginning」は、「動詞＋名詞」の働きのうち、「動詞」として目的語に名詞「the game」を、また修飾部分に副詞「now」を後ろに伴っている。この部分全体が「1つの名詞」として機能し、述語動詞「be」の主語となっている。)

例2：**Being your mom** has been a wonderful experience in my life.

「あなたのママでいることは私の人生で(ずっと)素晴らしい経験でした。」

(動名詞「being」は、「動詞＋名詞」の働きのうち、「動詞」として主格補語に名詞「your mom」を伴っている。この部分全体が「1つの名詞」として機能し、述語動詞「has been」の主語となっている。)

#### (2) 「名詞」に近い動名詞

動名詞の中には、「動詞＋名詞」の働きのうち、「動詞」としての機能をほぼ失ってしまったものもあります。このような動名詞は「**名詞に近い動名詞**」と言うことができ、動詞として後ろに「目的語」や「補語」や「修飾部分」を伴うことはできません。

「名詞に近い動名詞」は、通常「～すること」のような日本語には訳されず、「二字熟語」や「普通の名詞」として訳されます。このような動名詞は「冠詞」や「形容詞」によって修飾されたり、「複数形」になったりして普通の名詞と同じように機能します。このような働きをする動名詞は「beginning (始まり、開始)」「meaning (意味)」「painting (絵画)」などに限られ、英語の全ての動詞が「名詞に近い動名詞」になるわけではありません。

例：**The beginning of the game** was delayed about fifteen minutes.

「その試合の開始は約15分遅らされた。」

(動名詞「beginning」は、ほぼ「名詞」として働き、普通の名詞のように定冠詞「the」と形容詞句「of the game」によって修飾され、述語動詞「was」の主語となっている。ここでは「begin」という動詞の機能が失われているため、目的語を伴って「the beginning the game」とすることはできず、前置詞「of」が必要となる。)

#### 4. 動名詞の形容詞的な働き（現在分詞との区別）

文中で「動詞の原形の語尾に『-ing』がついた形（＝「-ing形」）」が、形容詞のように「後ろの名詞」を修飾していることがあります。動詞の「-ing形」という形になっているものとしては、「動名詞」と「現在分詞」の2つがあります。基本的に「動名詞」は「動詞＋名詞」の働きをし、「現在分詞」は「動詞＋形容詞」あるいは「動詞＋副詞」の働きをします。このため、動詞の「-ing形」が「形容詞」として機能しているならば、それは「現在分詞」である、と解釈してしまいがちですが、実は「動名詞」にも「形容詞」のような機能があります。

これは「普通の名詞」にも見られる用法で、「2つの名詞」が並んでいる時、「前の名詞」が「形容詞」のように機能し、「分類」を表しながら「後ろの名詞」を修飾することができます。

（★「分類」を表す名詞が「直後の名詞」を修飾する場合→P.32参照。）

これと同様に、「動名詞」もまた、「分類」を表しながら、形容詞のように「後ろの名詞」を修飾することができます。

後ろの名詞を修飾している動詞の「-ing形」が、「動名詞」と「現在分詞」のどちらなのかを判断するためには、以下のポイントを確認すると良いでしょう。

- (a) 「修飾される名詞」と「-ingを取り外した動詞」の間に「主語(S)＋述語動詞(V)」の関係が見える場合→「現在分詞」と解釈でき、「～している(最中の)」のような日本語で表される。発音の際は、通常「修飾される名詞」にアクセントが置かれる。

例1: **sleeping** dog 「眠っている(最中の)犬」

(「dog」と「sleep」の間に「犬が眠る」という「S＋V」の関係が見えるので、「sleeping」は「現在分詞」とであると解釈できる。)

例2: **playing** children 「遊んでいる(最中の)子供達」

(「children」と「play」の間に「子供達が遊ぶ」という「S＋V」の関係が見えるので、「playing」は「現在分詞」とであると解釈できる。)

- (b) 「修飾される名詞」と「-ingを取り外した動詞」の間に「主語(S)＋述語動詞(V)」の関係が見えない場合→「動名詞」と解釈できる。(直後の名詞の「分類」を表している。) 発音の際は、通常「-ing形」の動詞にアクセントが置かれる。

例1: **sleeping** bag 「寝袋」

(「bag」と「sleep」の間に「袋が寝る」という「S＋V」の関係が見えないので、「sleeping」は「動名詞」とであると解釈できる。)

例2: **playing** cards 「トランプ」

(「cards」と「play」の間に「カードが遊ぶ」という「S＋V」の関係が見えないので、「playing」は「動名詞」とであると解釈できる。)